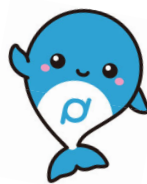


N NEWS LETTER

中央労福協ニュース

労働者福祉中央協議会
NATIONAL COUNCIL OF WORKERS' WELFARE発行人 南部 美智代
No. 212〒101-0052
東京都千代田区神田小川町3-8 中北ビル5F
Tel. 03-3259-1287 URL <https://www.rofuku.net>

予告

全国研究集会 2024 in OKINAWA Hybrid 開催

6月7日 14:30 ~ YouTubeLive で生放送!

残波ビーチ (沖縄・読谷村)

中央労福協は2024年6月7日(金)14:30~18:00、「全国研究集会2024 in OKINAWA」をHybrid開催する。

今年は沖縄県那覇市にある那覇文化芸術劇場なは一と大劇場から、YouTubeLiveで生配信する予定。一般にも公開するため、加盟団体関係者のみならず、広く役職員・組合員、友人・知人、ご家族など、視聴の呼びかけをお願いしたい。当日は全国どこからでもどなたでも、PCやスマートフォンからアクセスし、参加することができる。

人口減少・少子高齢化が進む現代日本社会、未来を担う子どもたちを社会や地域でいかに育てていくのか、私たちは問われている。

進む都市化やデジタル技術の進展など、時代とともに子どもたちを取り巻く社会環境やライフスタイルは大きく変わり、いま大人である私たちがかつて子どもだった頃とは、遊び方や学び方、抱える悩みや価値観も大きく異なっている。

私たちは、子どもたちが置かれている現状について知り、地域はどのように役割を果たすことができるのかを考えていく必要がある。子どもたちが抱える課題は言い換えれば「未来を担う世代」の課題であって、その「未来」はいまを生きる私たちのだれにとっても無関係ではない。

今回は、自然環境、スポーツ、音楽、文化芸術、フードサービス、子育て支援など、さまざまなアプローチから地域の子どもたちと関わり、「楽しさ」を追求しつつ子どもた

ちの「居場所」づくりの役割を担っているNPO、民間企業などからゲストをお招きし、新しい発想で事業活動を展開する地域の挑戦に注目する。

●一般の方へ参加方法のご案内

本研究集会は「YouTubeLive生配信」と「会場での参加」のHybrid開催です。

①「YouTubeLive生配信」視聴によるWeb参加

当日、時間になりましたら特設サイトから生放送をご視聴頂けます。

② 現地の会場に行って会場参加する

一般のお客様は特設サイトから詳細情報をご確認の上、「会場参加申し込み」を行ってください。

特設サイトは
こちらから!

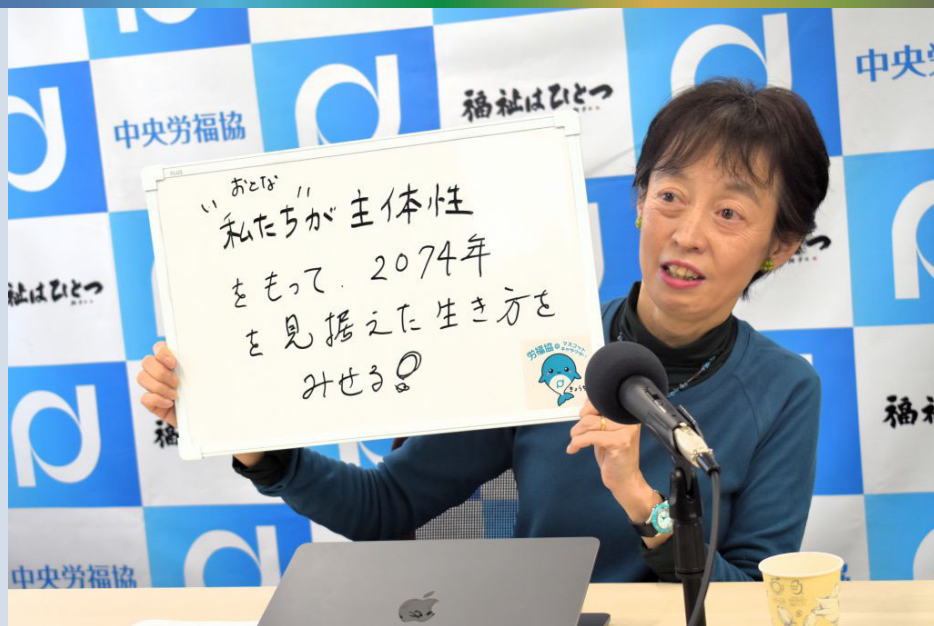


No.212 Topics

2~3面 SSE連続講座第7~8回レポート
4面 よりそいホットラインから見えるもの
若者たちのこと(第42回Web学習会)

「つながる経済」で社会を変える！ オンライン連続講座レポート

次世代の経済＝社会的連帯経済を国内外の現場から考える



中央労福協は連続講座『「つながる経済」で社会を変える！』の第7回を3月29日に開催し、ジャーナリストの工藤律子氏を講師に、国内外の現場の取材から見てきた社会的連帯経済（SSE）の魅力や、主体性や連帯を育む教育の重要性を学んだ。

工藤氏によると、パンデミックを経て SSE が改めて注目され、EU ではアクションプラン「次世代の EU」（2021年）の主な担い手として、労働者協同組合をはじめとする様々な協同組合が位置づけられている。

スペインでは、自分がやりたい仕事・職場を実現するために労働者協同組合をつくって生き活きと働いている人たちが多く。紹介された事例は、自転車を変革の道具として活用する事業、組合員2人で行った陶芸工房、宅配プラットフォームに対抗して協同組合として立ちあげたバイク宅急便、移民の若者たちが自ら働くための衣料ブランドなど多彩だ。日本でも、不登校経験者が労働者協同組合を立ちあげるなど、自分らしい働き方・生き方を探る若者たちが生まれつつあるという。

次世代の経済を「働く市民」の手で築くために必要なこととして工藤氏が強調したのが、「主体性・民主主義・連帯・持続可能性を育む教育」だ。スペインには450を超える子ども協同組合があり、子どもの頃から民主的な運営や連帯・協同による活動を学んでいるという。

工藤氏は、スペインの SSE スタディーツアーに参加した日本の学生がみんな「大人がキラキラ輝いている」と感想を語ったことから、「日本の大人は身近な若者にそうした姿を見せてこなかったのではないかな。私たち大人が主体性をもって50年先を見据えた生き方をみせることが大事だ」と訴えた。

ナビゲーターの法政大学大学院教授・伊丹謙太郎氏は、「1人当たりの GDP が日本と一番近いのがスペインだが、若者から見た大人の姿がスペインではキラキラと輝き、日本では疲れ切って見える。何が違うのか。それが SSE の中核的なエッセンスであり、今後深めていきたい」とまとめた。

<連続講座の申込受付中> お申し込み頂ければこれまでの講座の見逃し配信も視聴できます。

第5回 プラットフォーム協同組合の可能性と課題

第6回 協同労働という働き方と労働者協同組合法の可能性を考える



詳細・申込は
こちらから！

「つながる経済」で社会を変える！ オンライン連続講座レポート

社会課題の解決やコミュニティづくりの実践から学ぶ



池本 修悟 氏



浜地 研一 氏



鈴木 雅剛 氏

中央労福協は連続講座「『つながる経済』で社会を変える！」の第8回を4月19日に開催し、ソーシャルビジネス、NPO、生協で活躍されているお三方から、社会課題の解決やコミュニティづくりの実践事例を学んだ。

(株) ボーダレス・ジャパンの共同創業者である鈴木雅剛副社長からは、ソーシャルビジネスを通じた社会課題の解決について伺った。同社の51事業のひとつとして紹介された事例では、ミャンマーの小規模貧困農家を対象に、生活費と生産コストから逆算した価格で買取り、高付加価値商品を開発・製造・販売している。また、自律した起業家が社会課題の解決のために共創するエコシステムや、売上高の1%を原資に新規起業家の創業資金やノウハウを支援する「恩送り」の仕組みも特徴的で参考になる。

(公社) ユニバーサル志縁センターの池本修悟専務理事からは、日常における地域のつながりを紡ぐことの大切さや、労働組合のパワーを活かし連携して取り組むことでチャレンジや変化を生み出せることを学んだ。現在は社会的養護の児童や若者を支援する活動に力を

入れ、首都圏若者サポートネットワークを立ちあげ、基金による助成など様々な支援や政策提言を行っている。本年4月に施行された改正児童福祉法に基づきスタートする社会的養護自立支援拠点事業にも注目してほしいという。

生活協同組合コープこうべ情報デジタル推進部の浜地研一統括からは、デジタルツールを活用した地域の助け合いをつなぐプラットフォームづくりについて伺った。現在では、コープ商品の利用やイベントへの参加をはじめ、ゴミ捨てなど生活の困りごとの助け合い活動「たすけタッチ」もアプリを活用した参加が広がっている。生協の運営参加に興味がないという組合員も増えているが、つながりやすい道具（つな具）を創ることで、より多くの人がつながり助け合う地域をつくっていききたいと抱負を語った。

3人によるクロストークでは、つながりの前提となる日常からの顔の見える信頼関係や、「助けて」と言える関係づくりをどう進めるかなど、それぞれの経験や工夫を学びあった。

<第9回のご案内> 2024年5月15日(水) 14:30～16:00 (見逃し配信あり)

社会的連帯経済を支える社会的金融 Part I. ～社会課題の解決に向けた、地域の資金循環を考える～

法橋 聡 氏 元近畿労働金庫地域共生室長

多賀 俊二 氏 草の根金融研究所「くさのーね」代表

山口 郁子 氏 (一社) 全国労働金庫協会政策調査部 部長



詳細・申込は
こちらから！

よりそいホットラインから見えるもの 若者たちのこと 第42回 Web 学習会を開催

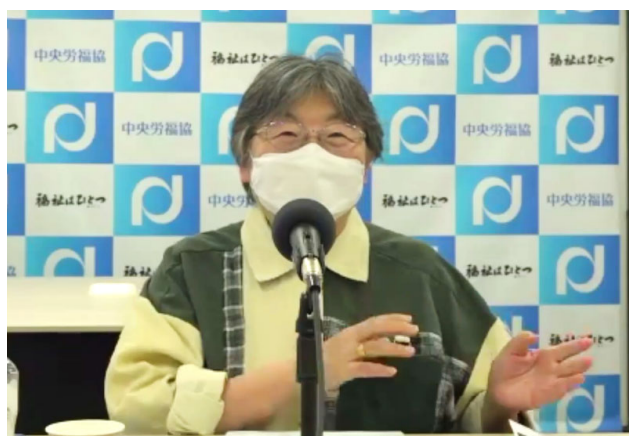
中央労福協は4月12日、一般社団法人 社会的包摂サポートセンター 事務局長 遠藤 智子氏を講師にお招きし、「よりそいホットラインから見えるもの 若者たちのこと」をテーマに第42回 Web 学習会を開催、91名が参加した。

「よりそいホットライン」とは、24時間365日年中無休の悩み相談窓口で、11カ国語対応を準備し、現在は電話のほか、SNSのチャット等も活用し、広く相談を受け入れている。

遠藤氏によると、リアルタイムチャット相談などを活用し、つぶやきが相談に繋がり、難しいとされている若者層への継続支援が増加してきた。2023年4月～12月の期間では、専門家等との連携が必要な相談者の内の約30%が10代・20代であった。

遠藤氏は複数の具体例と共に、若年層の「帰属」の問題を挙げられ、彼らはSNSを駆使して関係を築くが、利用するアカウントを学校や趣味・親類等の関係先ごとに設定し、その場に応じた演技をしている為、そのどれにも帰属意識がないのだと話す。

また、「情報収集の場所」の問題として、大人世代がリアルな人間関係で情報を得ていた一方、若者世代は対象がインターネットに変化したことで、真偽不明な



情報に囲まれて寄り添えないという。

だからこそ、どんな悩みにも共通して「受け止められること」を求めており、「認められて安心できる繋がりの中に居たい、そこにどうやって辿り着けるのか」という思いがあると推察された。

これらをふまえ相談支援の視点では、引き続きインターネットでの対応は必須として、メタバース空間等の居場所づくりを進めるほか、相談者には「何か辛いことがあったんだ」ということを前提に考える「トラウマインフォームドケアの姿勢」で寄り添い、彼らの痛みを想像しながら対応することが重要だとまとめられた。

スマートフォン版オープン!

もう悩まないで!

奨学金返済 Q&A

返済に困っているあなたへ
法律のプロがよりそって解説します

岩重佳治弁護士 監修

奨学金返済にお困りの方へ ひとりで悩まず、相談を!

中央労福協では奨学金の返済でお困りの方に役立つ情報や具体的な相談先をウェブサイト上で公開しています。今、返済している方も、これから返済が始まる方も、ぜひひとりで悩むことなく、まずは右 QR コードにアクセスしてください。

詳しくは
コチラ!